
初めてのチュ～@公園

久川智子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初めてのチユ〜@公園

【Nコード】

N7604P

【作者名】

久川智子

【あらすじ】

母親と幼い息子の話し。

乳離れをしたはずの息子は私の前ではおっぱいを触りに来る。人前では絶対にしない。
まだ、三歳児なのに。
飼い猫も同じだった。息子が猫にちょっかいを出すようになったら、引っ掻いた。
旦那や姑が猫を叱る。そうすると、大人の前では引っ掻かず、息子ひとりだけだと、引っ掻いた。
畜生のくせに。

私のおっぱいは乳離れとともにたれ始め、息子は触るのではなくて、つまむようになった。つまむと痛いので、おっぱいさわり禁止にした。

息子は欲求不満になったのか、公園でおもむろに女の子の手をつなぐ行為をしはじめた。

相手は息子より幼い女の子たち。顔見知りの女の子は平然としているのだが、気の強い女の子は嫌がって突き飛ばしたりした。

息子の行動が目にも余るようなら、叱ってあげないといけないと思っ
てはいた。

人見知りの激しい女の子がいて、やっと母親から離れて遊ぶようになった。そんな女の子の手をおもむろにつなぐ息子。女の子は大泣きをした。

私はつい、カッとなって、拳骨で息子の頭を殴った。

「この馬鹿息子！」
周囲は一変に凍りついた。児童虐待を思わせるような折檻だったからだ。

感情的になった自分を恥るとともに、物言えぬ空気に押しつぶされ
そうになった。

しかし、息子は泣く事もなく、口から舌をベロツと出して、愛嬌を振りまいた。

そして、おお泣きしている女の子に向かって謝った。

謝る息子の手を強く引き、「恥ずかしいったりや、ありやしない。」
といいながら、その場を去った私。

家に着くと、息子は頭を抱えておお泣きした。

「痛かった、痛かったんだよ。」

抱きしめて頭をなでてあげた。息子の手がおっぱいのほうに伸びてきた。仕方がないので、されるがままになった。

公園で遊ぶ姿を見守る日々。ジャングルジムなどは、小さい子供に小学校高学年の子たちも混じって、走り回ったりしていた。おにいちゃんたちに巻き込まれて怪我などしないだろうかとハラハラしながら、見ているけど、実際に事が起こっても、大人が出る幕ではないのだろうと思っていた。

それは突然起きたことだった。

ロープの網が上から垂れ下がっていて、ロープ伝いに上っていくものだった。ロープの下に板が敷き詰められていたので、足が落ちて
も大丈夫そうだった。

ところが、息子の先に上る女の子が足をすべらせ、息子の上のっかってしまい、二人とも地面に落ちてしまった。落ちた高さはあまりなかったけど、女の子が息子より大きく見えたので、重くのしかかって怪我をしたのではないかと、側まで寄った。

女の子を抱きかかえると、手足が細長いだけで重さは無かった。息子といえば、尻餅をついたので、怪我らしい怪我は無かった様子だった。女の子も怪我は無い様子だった。

「大丈夫？ごめんね。」

女の子の言葉に、息子は機敏に立ち上がった。

私は汚れたズボンをはたき、土を落とす。息子の後姿しか目に入っていないが、どうやらその時妙な事をしていたらしい。

「え？」

という周囲の人の声が聞こえて、息子の顔を覗こうとすると、女の子が息子にキスをしていた。

どうやら、息子は口を尖らせてキスをするように促したらしい。女の子は何の恥じらいもなく、息子のしぐさに応じたらしい。

「ええええ！！」

大人気なくも、わたしは大声を上げてしまった。

女の子はませていると思っていたけど、目の当たりにすると開いた口が塞がらなかった。

チュウされた本人である息子は自失呆然と、顔を赤らめて馬鹿面であっていた。

女の子は、クスツと笑って去っていった。

姑から、聞かされていた。

「息子が女の子の人を連れてくるとなると、とられるんじゃないかとそりやもうやきもち焼いてどうしようもなかったわ。」

それまで息子がとられる心境なんてまだ先のことだろうと思っていただけに、シヨックが大きかったかもしれない。しかし、時間がたつても、馬鹿面のままの息子を見ると、まだ、大丈夫だわと思えてきた。

その翌日、私の手を強く引いて、公園に行きたがる息子。きっと、チュウした女の子に会いたって思っているのだろうと考えた。

しかし、翌日どころか、それ以降もその女の子は見かけなかった。女の子を目で探しつつ遊ぶ息子の姿がいじらしく思えた。日にちが経って、もう会えないと理解した頃、息子は周囲に言いふらすようになった。

「初めてチュウした。女の子とチュウしたんだよ。」

最初のうちは興味深深で聞かれていたものの、ずっと言い付けていると、興味をもたれなくなった。

そのうち、言わなくなるのだろうとわたしは思っていた。

馬鹿みたいに嬉しそうにはしゃいで言い続ける息子をみて、大きくなつたときに、焼きもち交じりに聞かせてあげようと思った。初めてのチュウの話。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7604p/>

初めてのチュ〜@公園

2010年12月30日18時52分発行